

日田祇園の由来

祇園社の祭神は、牛頭天皇スサノノミコト(素戔鳴尊)といい、悪疫鎮護の荒神様である。日田には、隈・豆田や池辺・蕪・堤などに400~500年以上前から祇園社があり、それぞれ祭礼が行われてきた。寛文5年(1655)頃には小規模な「昇かき山」を作り、鉦かねや太鼓をたたいて回っていたが、正徳4年(1714)頃に隈・豆田で山鉦が作られるようになり、祭りは益々盛んになった。

山鉦に活力を与える祇園囃子が、現在の形になったのは、江戸時代末期、小山組初代徳太郎が代官の命によって囃子を研究し、その子松吉によって大成されてからである。

「日田祇園の曳山行事」は平成8年に国重要無形民俗文化財の指定を受け、平成28年にはユネスコ無形文化遺産に登録された。毎年7月20日過ぎの土曜日、日曜日に祇園祭が行われ、隈・竹田地区(4基)と豆田地区(4基)に平成山を合わせた合計9基の山鉦の巡行が行われている。



交通

JR 日田駅から 徒歩で約 10 分 (0.8km)
日田バスセンターから市内循環バス温泉旅館街方面行、隈町入り口下車→徒歩約2分
日田インターから車で約 10 分 (3.4km)

利用時間のご案内

開館時間/午前9時より午後5時まで
休館日/毎週水曜日(水曜日が祝日の場合は翌日)
年末年始(12月29日から1月3日まで)

入館料

| | 個人 | 団体(15名以上) |
|--------|------|-----------|
| 大人 | 320円 | 270円 |
| 小・中・高生 | 220円 | 150円 |

※障害者手帳をお持ちの方は無料です。
また、障害者1人に対し、介護者1人も無料となります。

MAP



日田祇園山鉦会館

〒877-0044 大分県日田市隈 2-7-10 TEL・FAX 0973-24-6453

ユネスコ無形文化遺産登録
「日田祇園の曳山行事」

日田祇園山鉦会館





館内のご案内

- 1階 / 飾山1基と祭りの時、町内を曳き廻す各町の山鉾5基が展示され、展示ケースの中には山鉾の後ろに飾る見送り幕と、水引幕が展示されている。
- 2階 / 祭りの諸道具と3月、5月の節句の人形が飾られ、モニターでは祭りの模様が映されている。

日田祇園 ～スケジュール～

7月1日

- ◆小屋入り行事 / 山鉾の建造開始を「小屋入り」という。この日から本格的な作業に取りかかる。

2週間前

- ◆車揚げ / 普段、池の水の中に沈められた山鉾の車輪が組み立て前に池から引き上げられる。
- ◆山鉾組み立て(飾り付け) / 色揚げされた館や、引き上げられた車が組み立てられ、パイパイや手作りされた松ノ木、牡丹、あやめ、梅などの飾り付けがされる。

1週間前

- ◆御輿洗い神事 / 禊行事として行われる。祇園一週間前の土曜日深夜から行われ、三隈川で白木の御輿を洗い清める。

2日前

- ◆流れ曳き / 山鉾のバランスや調子を見るための試運転。

当日

- ◆祇園祭 / 祇園祭には御輿の神幸や山鉾の巡行が行われる。当日、山鉾は午前9時頃から動かされ、町内押しの後に各地域の神社に集合し納められる。その後、所定のコースを巡行する。

翌日

- ◆藪入り / 祭り翌日、打ち上げを兼ねて慰労が行われ、一切の祭りの行事が終わったとされる。

展示物のご案内

見送幕



◆唐獅子(若宮町)

◆素盞鳴尊の大蛇退治(川原町)

見送幕(みおくりまく)は祇園山鉾の背面を飾る垂幕のことで、著名な画家の絵をもとに作らせ当時では珍しい舶来の猩猩^{しやうじやうひ}緋のラシャ地に金糸銀糸の刺繍をほどこし、動物の爪には象牙を使い、眼玉には高価なギヤマンをおしげもなく使っている。

館内の收藏山鉾



◆平成山鉾



◆三隈町山鉾



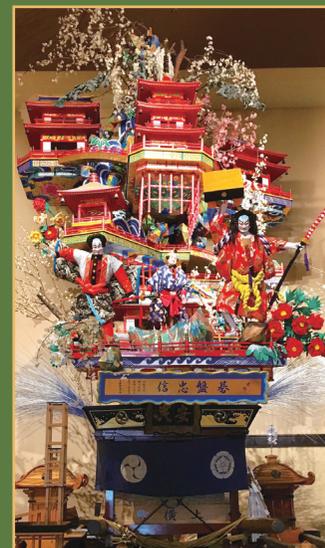
◆若宮町山鉾



◆川原町山鉾



◆大和町山鉾



◆飾り山鉾